

E S Dパワーアップ交流会@八名川 参加報告書

奈良市立平城西小学校

教諭 木口 裕太

今回、E S Dパワーアップ交流会に参加させていただいたのは、西口教頭からのお誘いで、他府県の学校の様子を見られること、以前から興味があったE S Dについて、先生方の実践をお聞きできること、そして多田先生にお話をいただけるということで、参加させていただきました。

1. 午前の部 八名川まつり

まず最初にしたのは、周到に準備された発表会だなということでした。低・中学年はお店スタイルで、高学年は発表会スタイルでしたが、掲示物や具体物は、手を抜いたものはなく、驚きでした。

私は高学年を中心に参観しましたが、実際に各コーナーを回っていくと、児童のレベルの高さに感心しました。5年生は、防災についての発表でした。事前に撮ったV T Rを使い、「ニュース」として発表している児童や、エレベーターや家具などを作り、「体験型」として発表している児童が印象に残りました。6年生は、将来の仕事について、自分で調べたことを、パワーポイントや具体物を使いながらの発表でした。一つ一つの仕事について、よく調べられており、私自身が知らないこともたくさんありました。何より驚きだったのは、一切原稿を見ずに発表する児童がいたことでした。

それぞれの学年が、E S Dのテーマと関連させて、「深い学び」として進められ、その集大成が、この「八名川まつり」なのだと感じました。これは、手島校長先生がおっしゃっていたように、短期間で完成するようなものではなく、長い時間をかけて積み上げていかれた結果だと思いましたし、その必要性も感じました。

2. 午後の部 E S Dパワーアップ交流会

各学校の先生方の取り組みを伺い、印象に残ったのは、奈良市立都跡小学校の山方先生の取り組みでした。E S Dと広島のお好み焼きを関連させた取り組みには驚きでした。様々な切り口で教材開発することが可能なのだということに加えて、従来の教材開発に対する考えも新たなものになり、非常に刺激になりました。

その後の、八名川小学校の先生方の発表も、興味深いものでした。私は現在、2年生の担任をしておりますが、そこで学習する「野菜をそだてよう」の単元においても、E S Dの視点から授業を作っておられ、こちらも参考になると同時に、刺激となりました。しかし、計画や準備の大変さは、相当なものと考えられます。ここで、ベースとなるのは、何よりも職員同士のチームワークであろうと思われます。これは、八名川小学校の職員の方々も、このチームワークに支えられていると話されていました。

多田先生のお話は、日本の学生の現状から、どういった教育が必要なのか、また、これからの教師の役割についてなど、大変興味深いものでした。「子どもの可能性への信頼感が大前提になる」ということは、教育者として改めて意識しなくてはいけないことと感じました。

今回の研修会では、E S Dの具体的な実践を知ることができ、大変有意義なものとなりました。また、「教育」というものの本質を改めて考えさせられました。是非、次回も参加させていただきたいです。

